

## 哲学系一般教育のモデルとしてのクリティカルシンキング

中部哲学会 2006 年度年次大会「哲学教育」ワークショップ

伊勢田哲治（名古屋大学）

### 問題設定

大学の一般教育（非哲学系の専攻の、特に一、二年生を対象とした講義授業）から哲学という名前の科目が姿を消していきつつある現状において、哲学系一般教育はいかに生き延びるべきか

→大学における哲学系のポスト確保に直接かかわる問題

→大学院生教育においても、単に専門だけ教えていけばよいわけではなく、一般教育の担当を想定した教育が必要

### 1 応用倫理教育モデル（「〇〇倫理」モデル）

発想：哲学系科目を応用倫理系科目に衣替えし、哲学系の教員が担当する

「生命倫理」「医療倫理」「看護倫理」「環境倫理」「工学倫理」「情報倫理」「法曹倫理」「ビジネスエシックス」「リサーチエシックス」etc....

### 利点

- ・倫理教育の必要性は誰もが認めるため、科目として生き残りやすい
- ・哲学系の教員が担当する必然性もある
- ・実際にこうした名称の科目が多数開講されてきた実績もある

### 問題点

- ・非倫理系の哲学を専門とする者にとってはまったく違うことを勉強することになる。
- ・倫理系の研究者にとっても、応用系の各分野（医療、環境、工学等）について知るのはいかなりの時間と手間を要する。
- ・その分野の専門家（生命倫理であれば医師、法曹倫理であれば法学者など）が倫理について勉強した上で教えた方が効率的な場合も多く、また学生もその分野の専門家の方を重視する傾向がある。
- ・一部の例外を除いて、従来の哲学の授業を応用倫理の授業と接合するのは難しいため、応用倫理教育においては従来教えていたようなことが教えられなくなってしまう。
- ・かつて「倫理バブル」といわれたような状況も頭打ちであり、哲学系一般教育の新しい

展開戦略を考える必要がある。

## 2 クリティカルシンキング教育モデル (CT 教育モデル)

クリティカルシンキング(critical thinking ,以下 CT)

- ・議論のよしあしを判断したりするための思考法
- ・もともとはアメリカで大学初年次むけ論理学教育として広まった  
1980 年にカリフォルニア州立大学で CT が必修化されたのが CT の広まりのきっかけと  
言われている
- ・情報の信頼性の吟味のしかた、議論の構造の分析のしかた、妥当な推論についての知識、  
犯しやすい過ちについての知識などが含まれる。(資料 3 も参照)
- ・CT の理論的基礎であるインフォーマルロジックは Informal Logic や Argumentation と  
いった学術誌を中心として発展中の分野

発想：CT を哲学系教員が担当する教養科目とすることで哲学系の授業枠を確保する。

### 利点

- ・CT の必要性や有用性については理解が得やすい
- ・学部や関心にかかわらず必要なスキルなので汎用性が高い
- ・内容の基本はインフォーマルロジックなので、CT の授業のために新しいことを多く学ぶ  
必要はない
- ・従来の哲学の問題との接合にそれほど無理がなく、哲学のさまざまな問題への導入とし  
て CT が使える（場合によっては CT という名目の下に従来型の哲学入門の授業を行うこと  
も可能か？）
- ・応用倫理教育にはあまり縁のなかった分野（特に論理学系など）の知識がスキルとして  
生きる（論理系、言語哲学系の院生の就職活動の材料になる？）
- ・通常の哲学の授業の存在意義についても CT の練習ということで正当化できる（かも）

### 問題点

- ・ある程度はどの分野でも使う思考法であるだけに、哲学系の教員がなぜ担当するのかを  
説明する理屈が必要

→ CT はそもそも哲学における思考法や論理学をベースにしたものである

→ 個別科学を専門とする研究者に比べ、哲学研究者は純粋に議論そのものに依存する比率が高いため、CT のスキルが高い（本当だろうか？）

・これまでの実績があまりない

→ CT を使った授業実践をつみあげていくこと、哲学系の CT の知名度をあげていくことが肝要

・CT 教育のための素養があることを示すための「業績作り」は難しい（後述）

### 3 CT 教育の実践

発表者自身はこれまでいくつかの授業で CT についてのレクチャーを授業の中に取り入れてきた

（1）応用倫理の授業の一環としての CT 講義

1 5 回の講義中、1 回か 2 回を使って CT について論じる（資料 1 での授業など）

（2）CT をメインとして科学哲学と接合した授業

1 4 回の講義中半分程度を CT の解説に使いつつ、CT の思考法の応用として科学哲学に固有のトピックについて論じている（資料 2 での授業など）

CT の教科書類では擬似科学が例として挙げられることも多いので、科学と擬似科学の線引き問題を間に入れるともっと科学哲学との橋渡しが簡単になる可能性もある。

その他、学生の発表を中心としたセミナー授業での利用など（資料 3）

そうした取り組みに対する学生の反応は今のところおおむね好意的である。

### 4 後継者育成における CT の位置づけ

「応用倫理教育モデル」においては、専門と別に何らかの応用倫理学の分野について勉強し、論文を書くことが院生に対して奨励されてきた。

同じことが CT 教育モデルでもできるだろうか？

- ・CTは「身につけるもの」であってそれ自体について論じるものではないため、論文の題材になりにくい。
- ・CT教育の方法論について論じるなら心理学、教育学など哲学以外の分野の研究を行うことになる。
- ・もっとも正攻法なのは論理学の研究ということになるが、これは論理学に触れたことのない学生にはハードルが高い。インフォーマルロジックならそうでもないか？（Informal Logic 誌の目次参照）

## 提案

- ・何か「それに関する論文を量産する」以外での有資格性の証明→資格制度の創設など？
- ・哲学系大学院教育において、CTを含む論理学教育を必修化する（大学院生を教える側の問題やカリキュラムの問題など）

## 5 まとめ

- ・CT教育に哲学研究者が名乗りを挙げるのが実際に大学での哲学教育の状況をよくするかどうかははっきりしたことは言えない。
- ・しかし哲学系の授業や哲学系教員のポストを確保することが緊急の課題となっているなかでとりあえずいろいろなことをやってみる必要がある。CT教育モデルはかなり可能性がある方なのではないか。

## スケジュール

- 第一回 環境倫理学とは何か [テキスト第1章]
- 第二回 倫理学の基本理論 (プリント)
- 第三回 倫理学の思考法 [参考書『哲学思考トレーニング』第四章]
- 第四回 科学的思考と価値 (プリント)
- 第五回 人間の問題としての環境問題(1) 公害 [テキスト第2章]
- 第六回 人間の問題としての環境問題(2) 資源枯渇 [テキスト第3章]
- 第七回 道徳的配慮の拡大 [プリント]
- 第八回 生態系重視の思想 [テキスト第7章]
- 第九回 世代間の環境正義 [テキスト第5章]
- 第十回 環境差別 [テキスト第6章]
- 第十一回 環境倫理と保全生物学 [プリント]
- 第十二回 環境倫理と都市計画 [特になし]
- 第十三回 環境倫理とリスク論 [特になし]
- 第十四回 環境倫理と環境負荷 [特になし]
- 第十五回 環境倫理の今後 [特になし]

※この授業スケジュールでは、第三回の授業で特に倫理問題におけるクリティカルシンキングを集中的にとりあげているほか、それと関連させる形で倫理学理論の問題を第二回、第四回でおこなって、環境倫理問題について考える基礎としている。

## スケジュール

- 第一回 クリティカルシンキング（CT）とは何か（『トレーニング』序）
- 第二回 哲学者の奇妙な心配（『トレーニング』104-119 ページ）
- 第三回 哲学における自然主義（『冒険』第1章）
- 第四回 CTの手法1：議論の特定（『トレーニング』22-46 ページ）
- 第五回 CTの手法2：思いやりの原理と協調の原理（『トレーニング』47-61 ページ）
- 第六回 CTの手法3：論理的な推論（『トレーニング』120-133 ページ）
- 第七回 文脈主義的CT（『トレーニング』134-148 ページ）
- 第八回 科学についてのCT1：科学の方法論（『冒険』67-84 ページ、『トレーニング』第2章）
- 第九回 科学についてのCT2：ヒュームの懐疑主義（『冒険』第3章）
- 第十回 科学についてのCT3：科学についての反実在論（『冒険』第5章）
- 第十一回 科学についてのCT4：実在論からの反論と自然主義（『冒険』第6章）
- 第十二回 倫理についてのCT1：価値主張と実践的三段論法（『トレーニング』150-178 ページ）
- 第十三回 倫理についてのCT2：倫理的思考で陥りやすい落とし穴（『トレーニング』178-19 ページ）
- 第十四回 倫理についてのCT3：共同思考のCT（『トレーニング』第五章）

※この授業スケジュールでは最初の数回で哲学的懐疑主義とCTの関わりを示したあと、4～7回でCTの技法を紹介し、後半では8～11回で「科学についてのCT」というタイトルの下に科学哲学の話題にかなり時間を割いて論じている。

## クリティカルシンキングとは何か？2

2

### 参考文献2

『クリティカル進化論2 OL 進化論で学ぶ思考の技法』(道田泰治ほか、北大路書房 1999年) 2

『論理トレーニング』(野矢茂樹、産業図書) 2

2

### クリティカルシンキング(critical thinking)2

クリティカルとは「批判的」ということ。ただし、日本語で「批判」というと悪口を言うことだと考えられがちだが、英語では(そして「クリティカルシンキング」という言葉の中では)、「きちんと吟味する」というぐらいのニュアンス。したがって、クリティカルシンキングというのは、「何事も無批判に信じ込んでしまうのではなく、問題点を探し出して批評し、判断する」こと。2

2

### 12 クリティカルシンキングの流れ2

2

#### (1) 議論の構造を把握すること2

2

#### 単なる意見2 対2 理由付きの意見2

理由付きの意見は、ふつう、根拠としての事実から、その意見が推論によって導き出されるという形をとる。

(根拠と推論をあわせて「議論」と呼ぶ) 2

しかし、議論の構造を文章中ですべて明確にのべてあることは少ない2

2

#### (1-1) 結論は何か2

結論が事実についてのものか、可能性についてのものか、価値判断かということで、必要とされる根拠や議論がまったく違ってくる2

2

#### (1-2) 理由は何か2

その結論を導き出すための理由として挙げられているものを特定する。2

2

はっきり述べられていない理由や前提もあるので、その場合には「思いやり」を発揮すること。2

2

#### (1-3) 構造はどうなっているか2

#### 反論に対する再反論2

AとBからCが導き出される2

当初Aと主張しているが、Bという反論を考慮してCという制限をつけている2

2

根拠と推論が特定できたら、(a)推論の仕方は妥当か、(b)根拠としての事実は正しいか、という二つの点をそれぞれ吟味することになる2

2

## (2) クリティカルな推論の仕方2

2

### (2-1) 反例を探す2

「スーパーで買い忘れたものがあるときは必ず帰ったとたんに思い出す」といわれると何となく納得してしまうが、実際に反例はないか調べてみたら、もちろんそんなことはない。2

2

### (2-2) 四分割表で考える2

たとえば、ある会社の社員が面接のときにどじな失敗をした話で盛り上がっていて、そこにいるみんながどじな体験をしていることが分かって、「もしかしてこの会社ってそういう社員を集めているのかな？」と疑問をもつという話。本当に面接でどじをして採用された社員の比率が高いかどうか調べるには、「どじをした・しない」と「採用された・されない」を使った四分割表の考え方が有効。2

2

### (2-3) 一致・差異・共変2

あることについていろいろな原因が考えられるときに、正しい原因を探り当てるのに役立つ考え方。2

一致・・・その結果がおきるときに必ずその条件が満たされていること2

差異・・・その条件を取り去ると、その結果がおきなくなること2

共変・・・その条件の程度にあわせて結果の程度もかわること2

2

(2-4) ただし、四分割表や一致・差異・共変の考え方を使って、二つの出来事の間になにか関係がありそうだと分かったとしても、だからといって一方が他方の原因だと簡単にいえるわけではない。2

2

2 まだ見落とししている原因があるかもしれない2

2 第三の要因が両方の共通の要因なのかもしれない2

2 原因と結果を逆に考えているかもしれない2

2 あるいは単なる偶然かもしれない2

2 後知恵バイアスがかかっているかもしれない（後知恵バイアスとは、後からの意味づけで、あることが必然的に起こったような気になること。）2

2 などなど。2

2

### (2-5) 理由にならない理由を見抜く2

人身攻撃論法--相手のいっていることの内容の是非を、相手の人物に関する攻撃にすりかえる2

わら人形論法--相手の主張をわざと極端な形に言い換えてそれを批判するやり方2

不適切なアナロジー--関係のない特徴の類似で推論する方法（足が扁平でペンギンににてるから泳ぐのが速



そうだ、とか) 2

雪だるま式論法→2 いったんある方向に進み始めたらとまらない、という論法 (一ヶ月で1キロ太ったから10年で120キロ太ってしまう、とか) 「滑りやすい坂道の議論」とか「くさび議論」とかいろいろ呼び方がある。場合によっては有効。2

二分法論法→2 話をAかBかの二者択一に単純化して、AでないからB、とする論法 (すこし言うことを聞いてくれないと「あなた私のことを愛してないのね」とかというあのたぐい) 2

体験談論法→2 一般にはあてはまらないかもしれないことを特定の体験談によって説得する論法 (「幸運のお守り」の広告に出てくる体験談のたぐい) 2

2

2

### (3) 根拠としての事実の検討2

2

#### (3-1) スキーマの検討2

われわれがものを見聞きするときには、過去の経験に照らして解釈しながら見聞きすることが多い。このため、思わぬ思い違いをしてしまうことがある。この、解釈に使われる枠組みをスキーマという。2

2

同じものを見ても、人によって違う側面を見ることがある2

実際には見えていないものまで勝手に補って見てしまう2

記憶を呼び起こすときにスキーマにあわせて修正してしまう2

2

自分の期待・願望にそった情報はよく調べずに受け入れ、反する情報は簡単に却下してしまう (二回同じ計算をした結果が違ったとき、自分の期待にそった結果の方が正しいと思いこんでしまう) 2

2

目立つものがくみ合わさった場合は記憶に残り、目立たないものはすぐに忘れてしまう (「だれそれがいるときは雨が降ることが多い気がする」のたぐい) 2

2

型にはまった固定観念でものを見てしまう (特に、よく知らない相手については、見かけや人種・性別など表面的な情報から「アメリカ人だからマクドナルドのハンバーガーしか食べないに違いない」とか勝手に思いこんでしまうことがある) 2

2

#### (3-2) そのほか注意すること2

2

自分の経験だけからみんなそうだと思いこむ2

記憶は案外あてにならない2

間接的な情報に注意する (誇張、単純化、つじつまあわせなどの可能性) 2

「専門家の意見」をむやみに信用しない (ある分野の専門家が別の分野について口を出していたりする場合もある。) 2

数字をむやみに信用しない(その数字がどうやって得られたものなのか、どのくらい意味のある数字なのか、ということを考える必要がある。) 2

相手が自分に都合のわるいことをわざと伏せている可能性を考慮する2

2

2

(4) その他、クリティカルシンキングができるようになるための心得2

2

物事を疑う習慣を身につける2

既成概念にとらわれない考え方をする2

物事を単純化しない習慣を身につける2

結論がでないことについては曖昧さに耐える習慣を身につける2

「あれ、変だ」と思ったときに、なぜ変だと思ったのか考え直してみる習慣を身につける2

などなど2

2

2

2.2 倫理的クリティカルシンキング2

2

倫理問題は好みの問題だと考えている人も多いが、クリティカルシンキングの考え方はかなりの部分まで倫理にも応用できる。2

2

倫理的判断の典型例2

「Aは悪い」「Aはよい」2

「Aをしてもよい」「Aをしてはならない」「Aをしなくてはならない」2

2

「なぜ」と理由を考えてみる2

「なぜソフトウェアを勝手にコピーしてはいけないの？」2

「だってそれは泥棒だよ」2

この短い回答には三つの要素が含まれている2

(1) 事実判断としての側面2

(2) 言葉の定義としての側面2

(3) より一般的な倫理判断としての側面2

2

(1) に関しては、その事実判断につながる推論が妥当かどうか、その判断の根拠となる事実が本物かどうかを疑ってみることができる。2

2

(2) に関しては言葉の用法が適切かどうか考えることが必要2

著作権の侵害がいいか悪いかという問題と著作権の侵害が「盗み」にあたるかという問題は一応別問題。しかし、もし著作権の侵害が「盗み」に分類されることが認められ、かつ「盗みは一般的に悪い」ということが認められるなら、著作権の侵害も悪いということになる。「正義」や「危害」といった言葉の意味はさらに難しくなってくる。2

2

倫理的な用語は操作的に再定義するだけでは処理できない2

2

(3) に関しては2

(a)2同じ理由があてはまるけど結論がひっくりがえるような場合について考える→overstatement の可能性2

(b)同じ理由があてはまらないにもかかわらず結論が同じになる場合について考える→understatement の可能性2

2

倫理的クリティカルシンキングにおける合理性の根拠2

2

広い意味での整合性をお互いに要求する2

2 →自分が相手と同じ立場に立ったとしても受け入れることのできる結論を主張する2

共通の立脚点を探す2

2 →一般的な倫理原則や調停原則についての一致点を見つけ、そこから議論を出発させる2

2

ただし、非常に根本的なレベルでの不一致は場合によっては解消のしようがない。2